

視覚障害

その研究と情報

No. 199



特集

国際点字楽譜の動向と日本のこれからの対応

◎加藤 俊和 1

●ルボ…………… 8

読書を変えるかPTR1

——どうなる、DAISY図書とテープ図書 ◎水谷 昌史

●先達に学び業績を知る…………… 15

戸井美智子さんを訪ねて ◎竹田 恭子

●施設レポート…………… 26

点字図書館の原点を守る「長野県上田点字図書館」

◎広沢 里枝子

●今を走る…………… 32

アテネで活躍 ゴールボール女子の直井由紀さん

◎武藤 歌織

●この人に聞く…………… 40

初の点字試験から30年——

東京都の職員採用試験 点字受験第1号の田中章治さん

◎馬渡 藤雄

●ITコラム…………… 48

便利に使えるICレコーダ ◎長岡 英司

2004
December

ブレイルメモが ワイヤレスになって新登場!

- ◆ケーブル不要のBluetoothを搭載、ワイヤレスでスイスイ通信
- ◆コンパクトなボディに点字表示部24マスを凝縮
- ◆新開発キースイッチで操作もスイスイ
- ◆文書を送るだけ点訳作業もスイスイ
- ◆読み上げ機能で確認もスイスイ

業界初の
5年保証

8点 24マス
6MB
バッテリー内蔵



■ブレイルメモBM 24 Braille Memo BM24

¥238,000 (非課税)

Bluetooth搭載

読めるだけでいいの? メモをとり、ノートを書く点字ディスプレイ

■点字ディスプレイ ブレイルノート ブレイルメモ

- ・点字情報の有料電子配信 (点字毎日、視覚障害 [視覚障害者支援総合センター刊] 等) に対応しています。
- ・点字プリンタに直接接続で点字印刷も可能です。
- ・携帯にはキャリングケース (別売) が便利です。

■ブレイルノート46X (BN46X)

KGSの点字技術を集大成したスマートかつ
ハイエンドな点字ディスプレイ

電子
配信
対応

8点46マス 6MB
着脱式バッテリー



¥449,000 (非課税)

・オプション 外付けのドライブ (CFD-10S) を接続して、
編集した文書を外部メディアに保存可能。

■ブレイルメモ16 (BM16)

パソコンが不得手でも、簡単に
使え、場所を選ばず、使い方
自由自在

8点16マス
2MB
バッテリー内蔵



新価格

¥168,000 (非課税)

■ブレイルノート46D (BN46D)

触読専用でパソコン画面情報を
リアルタイムに触読

8点46マス



¥349,000 (非課税)

アイコンって、いろいろな形があるネ! 図形をリアルタイムに表示する点図ディスプレイ

■点から面へ! 点図ディスプレイ ドットビュー

- ・図形学習に ・墨字 (一般文字) 学習に ・パソコンの操作支援ツールに
- ・応用範囲は多岐に ・画像触読ツールに

業界初の
5年保証

■ドットビュー Dot View DV-2

点間2.4mmのファインピッチで構
成され、より繊細な点図を表現で
きる世界最先端の点図ディスプレイ

新製品

32×48ドット

¥1,460,000 (税込)

時代は
新感覚へ



■ドットビュー Dot View DV-1

点間3mmピッチ表示部の
標準型点図ディスプレイ

24×32ドット

¥680,000 (税込)





国際点字楽譜の動向と 日本のこれからの対応

加藤 俊和

点字楽譜会議に12年ぶりに参加

さる9月23～25日、WBU（世界盲人連合）の国際点字楽譜記号会議がスイスのチューリッヒで開催された。前回の1992年の会議以降、欧米の委員を中心とした小委員会が数回開催されているが、本委員会は12年ぶりである。日本からは、日本点字委員会の委員で点字楽譜を長年担当していた私が代表として参加した。

点字の始めは楽譜

ルイ・ブライユが1825年に点字を考案して発表した4年後に、ブライユが世界で初めて世に出した点字解説書の名称は「言葉、音楽、そしてグレゴリオ聖歌を、点を使って書くための盲人用の方法」（ピエール・アンリ著『点字発明者の生涯』による）であった。ブライユは、まず楽譜を点字で表すために点字の配列表を作ったであろうことがこのタイトルからも伝わってくる。特に、基本になる全音符（⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠）が6点の拡がり（指先ではっきりと示す組合せとなっているなど、点字楽譜記号として非常に優れた触読性を有している。

文字については、この「ブライユの点字配列表」の最初の部分がそのままアルファベットに当てはめられて各文字の使用頻度を無視したために、フランス語はもとより、“どこの国のアル

ファベットにも最適ではない点の組合せ” となった。このことによって、欧米文字のアルファベットが共通になっていったことは興味深い（注）。

（注）アルファベットに点字を当てはめる場合、通常は各国語ともに点字器で書くときの負担を減らすために、使用頻度の高い文字ほど点の少ない点字に当てはめようとする。なお、19世紀前半頃までのフランス語のアルファベットは25文字で「W」の文字はなく、ブライユは後に表の末尾でまだ使用されていなかった「⠼」をWとした。

これまでの国際点字楽譜会議

点字楽譜について、これまでに開催された国際的な会議を列挙すると次のようになる。

1888年 国際音楽委員会 コロン（フランス）

（欧代表 4 カ国）

1929年 音楽記号国際会議 パリ（フランス）

（欧米代表 5 カ国）

1954年 世界点字楽譜統一会議 パリ（フランス）

（代表19カ国。オブザーバ 4 カ国、日本代表：日本点字研究会
会長鳥居篤治郎^{とりいとくじろう}、オブザーバ 岩橋英行^{いわはしひでゆき}、林薫夫^{はやしげお}）

1992年 国際点字楽譜会議 サーネン（スイス）

（代表15カ国、35人。日本代表：日本点字委員会点字楽譜担当
加藤俊和）

2004年 国際点字楽譜会議 チューリッヒ（スイス）

（代表18カ国、48人。日本代表：日本点字委員会点字楽譜担当
加藤俊和）

点字楽譜の国際会議は現在WBUの中に位置づけられているが、上記の経緯のようにむしろ欧米を中心に点字楽譜独自で歴史を積み重ねられてきたと言えよう。

世界各国の代表が参加して最も大きく広がった1954年の会議は、視覚障害者関係の国際会議に日本が初めて登場した、世界盲人福祉協議会（世盲協）の第1回大会と同時に開催された。後に同協議会の副会長となった日本ライトハウスの岩橋英行氏とともに、会議のすぐ後に岩橋^{たけお}武夫氏が亡くなられ日本盲人会連合の2代目会長となる鳥居篤治郎氏と、京都府立盲学校の理療科の教諭でテノール歌手でもあった林^{しげお}薫夫（繁男）氏が、海外渡航の制限されていた中を苦勞して参加している。この会議は実質的に点字楽譜の世界統一を実現するためのものであり、初めて新しい楽器や新しい音楽の形式及び東洋における点字楽譜についても言及された会議であった。

この結果が、鳥居篤治郎訳・林繁男編で1963年に京都点字社から『世界点字楽譜解説』点字版全5巻として出版された。さらに追補して1972年に墨字版が財団法人日本文化財団から出版された。私は、点字楽譜については林氏の手ほどきを受けて、この墨字版発行のときに少しは関係させていただいた。

その後も、欧米を中心とした会議は何度か開催されていたが、それらは日本の点字関係者はほとんど関知していなかった。

再び世界的に広く呼びかけられたのが1992年にスイスのサーネンで開催された国際点字楽譜会議であった。私は日本点字委員会の点字楽譜専門委員会や文部省の『点字楽譜の手引』の編集を担当し、一方では、国際標準機構ISOの点字コード作業委員会の専門委員でもあったので、日本代表として参加するこ

とになった。

国際的に使用する点字楽譜記号の確認

この1992年の点字楽譜の会議では、音部記号などこれまでの点字楽譜記号とは少し異なる記号も含めた200種以上の記号類について点字楽譜記号が確認された。その趣旨は、紛れが少なく音楽の専門家の使用に耐えうる記号と規則を国際的に統一するために決定していったのである。ただし、各国で現在使用している点字楽譜まで含むと合意が得られないため、各国で使用する点字楽譜については言及しないで、今後世界的に共通して使用する点字楽譜に限定して合意をみたものであった。

2004年の今回は、グレゴリオ聖歌や点字楽譜変換ソフトウェア、そしてこの会議の組織化についてが主要なテーマであったが、1992年に決定し1996年にマニュアルが出版されたあとの状況についても論議になった。

その中で象徴的だったのは、グレゴリオ聖歌についてである。ヨーロッパの古典的な教会音楽においては、現在の五線譜ではなく、ネウマ譜等の古い楽譜形式が今でも使用されており、視覚障害者の歌い手もそれを読めなければならない、というヨーロッパの事情が背景にあったからである。日本では教会においても五線譜が使用されており、研究者以外でネウマ譜等を実際に読む必要が生じることはほとんどないので、視覚障害者の音楽家にとっても点字楽譜上の支障はまずない。だが、欧米では、教会音楽を忠実に再現するためにネウマ譜等の表現が必要になり、専門的な歌手や研究者のためにその点字楽譜が必要になってくることから、審議されたものである。ただし、今回の会議

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

— 次号（2005年 1 月 No.200）予告 —

巻頭言 継続は力なりを実践している『視覚障害』創刊200号を迎えて ◎岩橋 明子

特集 特別支援教育の時代の視覚障害教育の専門性

——イギリスの現状から何を学ぶか

◎鳥山 由子・青松 利明

ルポ ヨーロッパ圏における視覚障害者の文化遺産へのバリアフリーなアクセスを実現するための取り組み

——イタリアで開催された国際カンファレンス「ART WITHIN REACH」に参加して

◎大内 進・高橋玲子

先達に学び業績を知る 障害者社会史研究の開拓者 故・加藤康昭博士 ◎高橋 智

盲学校レポート 広島盲「本校におけるセンター的機能の充実事業」 ◎岩森 広明

<新コーナー>アクセシブル・デザイン——企業や行政は今① 花王（株）

——商品、社会貢献の両面で「バリアフリー社会」を推進 ◎高嶋 健夫

表紙写真：イタリア、オメロ触る美術館にてギリシャ彫刻「サマトラケのニケ」を鑑賞する第1回サフラン賞受賞の高橋玲子さん。ヨーロッパを中心とした海外における視覚障害者の美術鑑賞等の取り組みについては、次号（200号）に掲載。

月刊 視覚障害 —その研究と情報—

2004年12月 No.199

年間購読料 6,000円（送料とも）

発行日 2004年12月 1日

編集人 高橋 実

（連絡先）社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻 2 丁目37番10号 Keiビル

TEL (03) 5310-5051 FAX (03) 5310-5053

<http://www.siencenter.or.jp/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧 6 丁目26番21号

印刷所 タナカ印刷株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋 3 丁目12番 4号

TEL (03) 3567-2551 FAX (03) 3564-2920

★本誌は5媒体出版です。活字の他、点字・テープ・フロッピー・点字メール版、ともに同センターより発行しています。購読は年間で、点字・テープ半減速（1本）・フロッピー・点字メール版、いずれも6,000円、テープ普通速（2本）のみ7,200円です。